

消費動向調査

第6回「山形県家計消費動向調査」(概要※)

※詳細は調査レポート (<http://www.sfsi.co.jp/>) をご覧ください。

1. 調査の目的 県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査の方法 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
3. 調査の対象者 県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2名以上) モニター世帯数：484世帯*
※有効回答数：458世帯(回答率：94.6%)
4. 調査期間 平成19年12月1日(土)～14日(金)

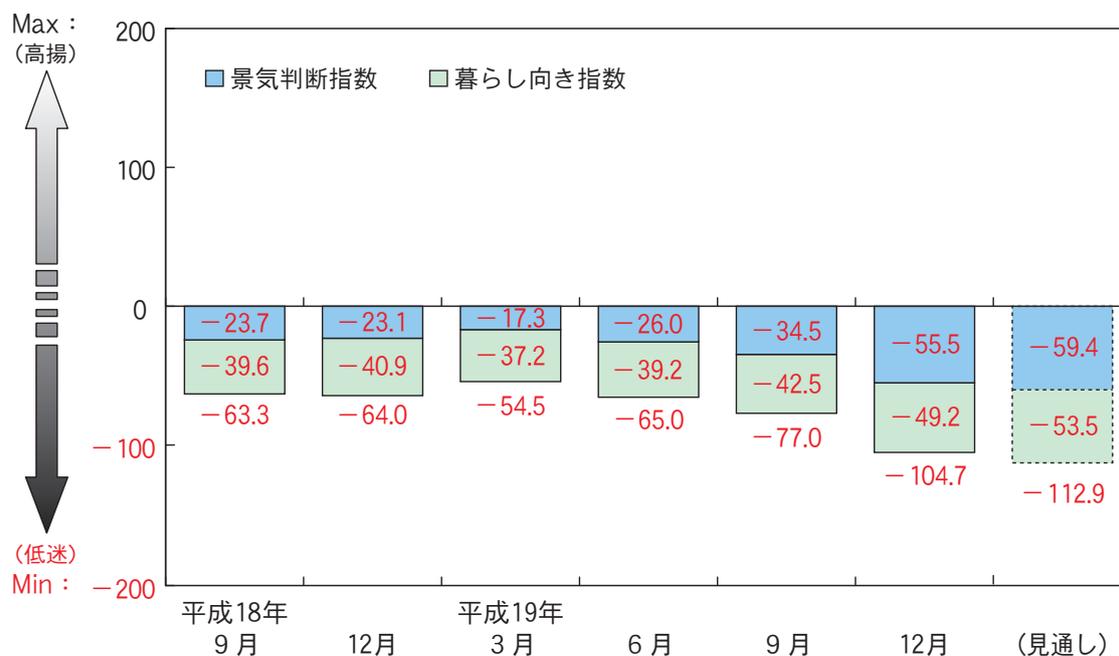
消費指数

★消費指数は▲104.7 ～消費マインドは低調～

消費指数は前回調査時点(平成19年9月)よりも27.7ポイント低下し、▲104.7となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲55.5、暮らし向き指数が▲49.2となっており、いずれも前回より低下した。特に、景気判断指数が大幅に低下したのは、物価上昇に懸念を抱く消費者が増えたことによる。

なお、今後の見通しについては、消費指数が8.2ポイント低下し▲112.9となるなど、低調のまま推移する見通し。



【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

①景気判断指数 (指数レンジ100～▲100) :

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

②暮らし向き指数 (指数レンジ100～▲100) :

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

■ 景気判断

県内景気 現状認識は「悪い」(31.7%)と「どちらかと言えば悪い」(34.3%)が66.0%を占めており、前回調査時点と比べ、県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が大幅に増えた。また、今後の見通しについても「悪い」(38.9%)と「どちらかと言えば悪くなる」(31.3%)と考えている世帯の割合がさらに増え、70.2%の世帯が悪くなると予想している。

雇用環境 現状認識は「悪い」(26.6%)と「どちらかと言えば悪い」(32.1%)を合わせると58.7%が悪いと判断しており、前回調査より徐々に雇用不安が広がっている。また、今後の見通しについても「悪くなる」(34.8%)と「どちらかと言えば悪くなる」(27.8%)と考えている世帯は62.6%となっており、先行きの見通しも暗い。

日用品価格(物価) 現状認識は「上がった」(78.4%)と「どちらかと言えば上がった」(14.2%)が92.6%を占めるなど、日用品価格に対して値上がり感を抱く世帯が非常に多い。また、今後の見通しについても、「上がる」(75.1%)と「どちらかと言えば上がる」(17.5%)と考えている世帯は依然として9割を超えているなど、物価上昇に対する警戒感は極めて高い。

■ 暮らし向き判断

世帯(勤労)収入 現状認識は「減った」(42.1%)と「どちらかと言えば減った」(17.7%)が59.8%を占めており、引き続き半数以上の世帯が収入は減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えているなど、収入の増加に期待する世帯は少ない。

資産価値 現状認識は「減った」(46.1%)と「どちらかと言えば減った」(18.8%)が64.9%を占めており、引き続き半数以上の世帯が資産価値は減ったと感じている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が増え、資産価値の増加を見込む世帯は少ない。

お金の使い方 現状認識は「控えている」(41.9%)と「どちらかと言えば控えている」(26.2%)が68.1%を占めており、お金を使うことを控えている世帯の割合は徐々に増えている。また、今後の見通しについても「控える」という世帯がさらに増えているなど、節約に努める世帯が多い。

生活のゆとり 現状認識は「厳しい」(54.8%)と「どちらかと言えば厳しい」(20.7%)が75.5%を占めており、引き続き半数以上の世帯が暮らし向きは厳しいと感じている。また、今後の見通しについても、同様に半数以上の世帯が厳しくなると見込んでいるなど、依然として生活にゆとりを実感できないでいる世帯が多い。

